

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471903094	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑津久井浜		
所在地	(〒239-0843) 神奈川県横須賀市津久井1-16-57		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令4年10月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様が自宅で出来ていた事を継続して出来る様心がけています。洗濯物を干したりたたんだり、ご自分の役割として積極的に行って頂く様支援しています。体力低下防止の為、散歩やラジオ体操を行って頂いています。在宅クリニック医師の月2回の往診と訪問看護ステーションの看護師の週1回の訪問を受け、しっかり健康管理を行っています。ご希望により歯科往診やメンタルクリニック往診も個別に対応しています。</p> <p>敬老会には民謡ボランティアさん、リスマス会には近隣の園児が来苑、夏には町内の御神輿が玄関先まで来て下さって恒例行事となっておりますが、今年度も新型コロナウイルス感染症予防の為来苑頂けませんでした。敬老会はDVD観賞会を行いお寿司でお祝いさせて頂きました。クリスマス会は職員と入居者様で楽しい会を企画しております。</p> <p>理念のゆっくりとゆったりと地域の中でその人らしい生活を目指しています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年11月22日	評価機関 評価決定日	令和5年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 事業所は、京浜急行久里浜線の津久井浜駅から徒歩11分ほどの海岸線に近い高台の住宅地に立地している、準耐火構造の木造2階建てのグループホームである。 シルバー事業として首都圏を中心に多数の有料老人ホーム、通所介護事業所、短期入所生活介護事業所などを展開する、大手不動産会社が運営している。</p> <p>【介護計画とケアの連動とモニタリング結果の家族への提供】 介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、フロア会議でカンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。家族の要望は、計画作成担当者が、面会時や電話連絡で確認している。計画は、原則6か月ごとに見直しているが、状況に変化があれば、その都度見直している。 モニタリングは、計画作成担当者が、職員から意見を聞き、毎月行っている。職員は、介護記録の支援内容の実施の有無を、専用の書式に毎日○×で記載して、計画とケアとの連動を図るとともに、モニタリングに活用している。モニタリングの結果は、利用者の状況と合わせ「入居生活介護サービス実施報告書」に記載して、家族に情報提供している。</p> <p>【職員の育成】 法人は、職員のスキルアップ支援策として、資格取得祝い金や資格取得手当の支給の他、介護支援専門員・介護福祉士の受験対策研修を実施している。また、認知症介護実践者研修などの法人が推奨する研修の受講は、勤務抜いで、受講料、交通費は法人が負担するなど制度面で、職員の育成とモチベーションアップに取り組んでいる。 法人は、入社時研修、職種別研修、昇格時研修、法令遵守研修、介護技術研修等、多岐にわたるプログラムを提供している。事業所は、法人の研修計画を基に「研修年間計画」を策定して、計画的な人材育成を行っている。また、身体拘束・虐待防止、感染症などの事業所研修を実施するなど、法人と事業所は、職員の育成に取り組んでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	あずみ苑 津久井浜
ユニット名	れんげ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活をする」「地域の中で生活をする」「ゆっくりとゆったりと」を理念にしている。個性を大切に生活して頂ける様に支援している。	事業所では、開設時に職員が話し合って策定した、事業所の理念「その人らしい生活をする」「地域の中で生活をする」「ゆっくりとゆったりと」を、事務所に掲示して周知している他、朝の申し送り時に確認している。職員は、理念に基づき、利用者が自宅でやっていたことは、できるだけ事業所でも継続してもらい、「その人らしい生活」を送ってもらうことを、念頭に置きケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、夏祭り際には神輿が来てくれたが、今年はコロナウィルスの影響で中止となりました。花の水やりや清掃時には近隣の方と挨拶をしている。	町内会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。散歩で出かけた時に、地域住民と挨拶して交流している。また、地域の防災訓練に職員が参加している。従来取り組んでいた、地域の清掃活動への参加や民謡や楽器演奏などのボランティア、中学生の職業体験の受け入れ、クリスマス会での幼稚園児との交流などの地域交流は、コロナ禍のため中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも機会があれば活かしていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響により運営推進会議は書面での報告をさせて頂き、ご意見や感想を伺い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族、町内会長、地域包括支援センター・市の福祉こども部指導監査課の職員をメンバーとして開催していたが、コロナ禍で対面での会議が開催できないため、2か月に1回文書で報告する書面開催としている。	事業所は、運営推進会議での地域の代表者や家族の意見の把握が不十分であると認識しています。メンバーの拡充や意見の吸い上げ方法の見直しなどの取り組みの強化が期待されます。

				<p>会議報告は、メンバーに郵送して情報交換している。行政関係者からは、家族からの要望で対応したことに関する質問や、事故報告の内容を運営推進会議でも説明したほうが良いとの意見などがあり、対応した。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>横須賀市に定期的に電話等で空き状況を報告し、分からない事がある時は相談している。又、集団指導には必ず出席している。</p>	<p>市の福祉こども部介護保険課には、事故報告の持参や、利用者の要介護認定申請代行で訪問している。また、入居状況を訪問した際や電話連絡で報告している。介護保険の手続きで不明なことなどは電話で相談して指導を受けている。今年度は、行政からマスク、手袋、フェイスガードや抗原検査キットの支給を受けた。市の集団指導講習会に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。委員会は月1度行い身体拘束について学習している。言葉の拘束は特に注意している。帰宅願望のある利用者様が出て行こうとされた時にはすぐに状況を把握し、無理に戻っていただくか落ちつかれるまで付き添うことが出来ている。	身体拘束禁止指針を定め、身体拘束等行動制限対応マニュアルを整備し、身体的拘束禁止委員会を毎月、身体拘束禁止に係る研修を年2回開催して、結果を法人に報告している。委員会では、前回からの振り返り・評価、指針に基づき身体拘束禁止対象の行為などの復習、身体拘束の事例分析などを行っている。外出願望の強い利用者には、職員が付き添い、散歩やドライブに出かけるなど気がまぎれるような対応や、見守りを行っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社研修や内部研修で知識を深めている。日常生活の中で言葉の暴力等も無いよう職員全員で注意している。	管理者は、法人の高齢者虐待防止研修を基に、事業所内研修を開催して、職員に心理的虐待や介護放棄なども含めた高齢者虐待防止法等を説明している。また、法人のコンプライアンス報告会で把握した不適切なケアの事例などについて、全体会議で職員と事例検討や話し合いをしている。管理者は、職員の疲労やストレスについて、本人と話し合い、原因を探り対応するとともに、シフトの変更や医療関係者への相談などを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり苑においても成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用している。必要に応じてご家族へも制度の活用を勧めている。		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約解除時には十分な説明を行い理解・納得をしていただけている。</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナウィルスの影響で面会にも時間制限があったが、その中で端的に意見を伺うことが出来た。</p>	<p>家族の意見・要望は、ご意見箱、運営推進会議の報告書送付時、面会で来訪時、オンライン面会や、電話連絡、メールのやり取りなどで把握している。家族から「趣味の継続として、塗り絵をさせて欲しい」という要望があり、対応した。また、利用者が使用する、下着のシャツや毛布などについて、指定があり対応した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議があり、シルバー全体会議やエリア会議での報告を行っている。フロア会議での報告等も行い、意見を聞き反映している。それ以外では個人面談を行い、意見交換をすることもある。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や、月1回の全体会議・フロア会議、個人面談などで把握し、運営に反映している。個人面談は、年2回、人事評価を兼ねて実施している。管理者は、職員の話否定せず傾聴して、職員が気持ちよく働ける職場づくりに取り組んでいる。職員から、「食材の生野菜が冷凍になるなど冷凍品が増えてきたので、もう一つ冷蔵庫を購入して欲しい」との提案があり、購入の手続きを進めている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の管理はしっかり出来ている。休憩もしっかり取ることが出来、有給も計画休とリフレッシュ休は必ず取得することになっている。コンプライアンスマニュアルの読み合せや研修に参加し、労務管理をしっかり行っている。	管理者は、職員の努力や成果を法人の会議で報告している。法人では人事評価制度を採用して、公平な評価を行っている。スキルアップ支援策として、資格取得祝い金や資格取得手当の支給などを行っている。また、認知症介護実践者研修などの法人が推奨する研修の受講は、勤務扱いで、受講料、交通費を法人が負担するなど、職員のモチベーションアップに繋げている。管理者は、職員の心身の状況を、個人面談、健康診断やストレスチェックで把握している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時事業者独自の介護基礎研修、パソコンでの勉強も実施されている。希望者には色々な研修を受けられるよう業務として参加することが出来る。	事業所は、法人の研修計画を基に「研修年間計画」を策定して、計画的な人材育成を行っている。法人は、入社時研修、職種別研修、昇格時研修、法令遵守研修、介護技術研修等、多岐にわたるプログラムを提供している。事業所では、身体拘束・虐待防止、感染症などの研修を実施している他、外部研	

				修として、認知症介護実践者研修などの受講を奨励している。新入社員の OJT は、フロアリーダーを指導担当者として実施している。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設職員との交流や情報交換をすることによってサービスの質の向上を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り、本人の希望や要望に耳を傾けている。不安要素がないか様子観察し、あれば取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階でしっかり説明を行い、家族の要望に耳を傾け、安心して頂けるよう信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要な場合も相談の上支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂き、出来ない時は職員も一緒にやる事で共に過ごし支え合う関係を築いている。安心して過ごしていただけるようコミュニケーションをしっかりとっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合い共に本人を支えていく関係を築いている。体調面に変化がある時は家族に連絡し相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響で家族以外の面会は出来ませんが、家族以外のなじみのある人とも電話での連絡を進めるなど、関係が続くよう支援している。	現在、友人や知人の訪問はないが、電話や手紙の取次ぎ支援は行っている。利用者が愛読している新聞の購読や、家族が持参する馴染みのヨーグルト、果物やおやつなどの取次ぎ、化粧品、シャンプーなどの購入を支援している。趣味の計算ドリル、大人の塗り絵、絵画制作を継続している利用者もいる。家族とのお墓参りや帰宅、葬儀への出席を支援するなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来る様テーブルの配置など工夫している。互いに認知症の理解は難しく職員も一緒に関わる事で利用者同士の関係作りを支援している。楽しい雰囲気作りにも努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても時々面会し、見守っている。コロナウィルスの影響で入院中の面会は出来ませんでしたが、家族との連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や居室内で2人きりの時に話したり、利用者同士の会話から本人の希望を把握し職員で共有し対応している。利用者家族に協力してもらう事もある。	職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して、利用者・家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。入居後は、日頃の会話や利用者間の会話の他、入浴時や居室内など1対1の時間を大切にして、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、入居後のアセスメントや、利用者の表情から推測して、支援に繋げている。把握した情報は、タブレットで介護記録や業務日誌に記録して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談の際にこれまでの生活歴など把握に努めている、又入居後も本人やご家族の会話や行動などから把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い申し送りで現状の把握に努めている。状態の変化を見逃さない様注意し職員間で共有している。状態により医師に報告し、指示を仰いでいる。申し送りと共に連絡事項を記載して重要事項の漏れがないようにしている		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の生活の中でご家族様とは面会時や電話で話し合い、毎月モニタリングを行い、お便りとしてご家族様に送付している。全員が把握	介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、フロア会議でカンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。計画は、原則6か月ごとに見直しているが、状況に変化があれば、その	

			し、反映するよう努めている。	都度見直している。モニタリングは、計画作成担当者が、職員から意見を聞き、毎月行っている。職員は、介護記録の支援内容の実施の有無を、専用の書式に毎日○×で記載して、計画とケアとの連動を図っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや様子を記録し情報を共有しながら見直しに活かしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅医療や訪問看護の取り入れを行っている。受診等は家族対応になっているが、状況に応じて職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍では難しいが地域資源を把握し安全に暮らしを楽しめるよう支援していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の在宅クリニックの定期往診を実施している。その他精神科や歯科の往診もある。基本的に職員が間に入っているが必要に応じて担当医と家族で話をし頂き適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が、24時間オンコール体制の協力医療機関（内科）をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。薬剤師が、月末の訪問診療時に同席して関係者と情報共有している。歯科は、希望者が協力医療機関と契約して月1回の訪問診療を受診している。精神科や整形外科など専門医への通院は、原則家族が付き添っている。訪問診療や通院の受診情報は、タブレットの往診記録、受診記録に入力し、職員間で情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護職員はいないが週1回、看護師に訪問して頂き相談しアドバイスを頂き、摘便等の処置を行って頂いている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には介護サマリーにて情報提供を行い、入院中は連絡を取り協力をしている。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には急変時におけるの確認書にて意見を伺っている。苑での看取りを希望された場合は家族、担当医と話し合い支援している。	入居時に「重度化対応・看取り介護指針」を説明して、「急変時におけるの確認書」で意向の確認をしている。状態変化により看取りを希望する場合は、再度「急変時におけるの確認書」で意向を確認している。看取りを行う場合は、介護計画を見直して、職員が家族、医療関係者と連携して支援している。今年度は1件、看取りを行った。今年度、看取りに関する研修は実施していないが、以前、協力医療機関の医師による研修を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず冷静に対応出来るように勉強会等を通して備えている。インシデントを行い、事故を未然に防げるように備えている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施を行っている。コロナウィルスの影響により、現在は簡易的な消防訓練を行っています。	事業所は、日中と夜間の火災と土砂災害を想定した避難訓練を年2回実施している。BCP（事業継続計画）は未整備で、訓練も未実施である。地域の避難訓練に職員は参加しているが、事業所の避難訓練に地域住民は参加していない。災害備蓄品は、リストを作成して、非常食セット（おかゆや佃煮などのレトルト食品）と飲料水を職員の分も含めて確保している他、カセットコンロ・ボンベなどの熱源も確保している。	コロナ禍という制約はありますが、事業所の避難訓練に、地域住民の協力が得られていません。地域との協力体制の整備に向けた取り組みが期待されます。また、BCP（事業継続計画）の策定も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせて声掛けを行っている。個人情報の管理も研修を受け、鍵をかけて管理し外部へ持ち出さない、出しっ放しにしない等徹底している。書類を破棄する場合もシュレッダーを必ず利用している。	職員は、研修で接遇、個人情報保護について学んでいる。また、コンプライアンスミーティングで、接遇 7 大用語を唱和している。利用者の呼称は、名前に「さん」付けを基本としている。会話の際は、利用者の名前は、イニシャルや部屋番号で話している。管理者は、職員の会話や行動で、気になったことは都度指導している他、内容によっては会議で話し合っている。パソコンとタブレットは、社員番号とパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや自己決定できるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂いている食事も本人の希望に出来る限り沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るよう衣類を選んだり支援している。毎日の洗顔、整髪等は自己でやっていただき必要に応じて支援している。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食器の後片付けを一緒に行っている。配膳や下膳はコップだけやってくれるなど無理の無いように心がけている。会話をしながら一緒に食事することで在宅での雰囲気を楽しんでいる。</p>	<p>3食とも、食材業者の献立と食材を使用して、職員が手作りしている。利用者は、食器洗い、食器・テーブル拭きなどを手伝っている。利用者の状況に合わせて、ソフト・刻み食を提供している。月2回法人の栄養士が、検食を兼ねて来訪している。誕生日会では、業者のお楽しみメニューを提供している。敬老会では、寿司の出前を取っている。利用者は、おやつ作成レクリエーションで、おはぎやさつま芋の巾着絞りを作り楽しんでいる。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった食事形態で提供し水分量や食事量を表に記入し把握している。食器や箸は共用だが状態に応じて食器などを利用者の使いやすいものに変える等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での歯磨きを促し出来ない部分を支援している。歯周病などは歯科医の往診も取り入れケアしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し早めに声掛けを行う等の支援をしている。	支援を受けずにトイレで排泄できる利用者が1～2名いる。他の利用者は、排泄チェック表で把握した排泄パターンに基づく定時誘導や、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行いトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠優先や定時誘導など、個人の特性に合わせて支援している。ポータブルトイレを利用している利用者もいる。入居した当時リハビリパンツだった利用者が、支援の結果、布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調節や乳製品を摂取していただく。毎日のラジオ体操や散歩等で身体を動かしていただき便秘予防に努めている。便秘の方はトイレ誘導時腹部マッサージを行ったり、医師に相談し薬を服用していただいている。		

45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、それ以外に希望された場合にも利用して頂ける様にしている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫している。特に入浴日を決めていない為、チェック表で把握している。	入浴は、最低週2回、午前中が原則であるが、利用者が希望する入浴時間や曜日に気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、声掛けや日時、時間を変えて入浴を促している。体調の悪い利用者は、シャワー浴や清拭で対応している。利用者は、職員との会話や菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。好みの石鹸やシャンプーを使用する利用者がいるなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休んでいただいている。室温や布団調整などを行い安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬などは複数で確認し誤薬の無いように努めている。利用者の傷病や薬の効果・副作用を把握するようにしている。処方に変更があった時等は特に変化がないか注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人での時間を楽しんでいる時は見守りを行っている。レク等を行い皆で楽しめる機会も作っている。		

49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへ散歩やドライブ等の支援を行っている。車椅子にて散歩に行く事もある。散歩の際に地域の方と遭遇すると挨拶し、言葉を交わすようにしている。外出イベントはコロナウイルスの影響で控えている。	コロナ禍でも、天気の良い日には車椅子の利用者も一緒に、近隣の人通りの少ない道を散歩している。玄関前の花壇での水まきや、ベランダでの外気浴を楽しむ利用者もいる。花見にドライブで出かけ、車中から景観を楽しんだ。また、徒歩で初詣に出かけた。家族の支援でコンビニでの買い物や、お墓参り、葬儀などに出かける利用者がある。利用者の外出歴をタブレットで入力して把握し、外出状況の管理に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しく、ご家族様と一緒にの時にお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族に電話をすることがある。家族や友人からの手紙には返信できる様に支援をしている。携帯などの端末でお互い顔を合わせての通話ができるサービスも開始した。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に花を飾ったり、貼り絵や工作等を飾り季節を感じて頂ける様工夫している。	リビングは、大きな窓があり、採光もよく明るい。車椅子の動線も確保されている。台所は、カウンターキッチンで利用者の様子を見守りながら調理ができる。温度・湿度管理は、エアコン、加湿器や空気清浄機で行っている。また、窓の開放やサーキュレーターを使用して換気を行っている。リビ	

				<p>ングは、朝食後に職員と利用者が掃除している。壁には、利用者と職員が作った季節毎の貼り絵や、行事の写真を飾っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルやソファの位置を工夫している。居間の座席だけでなく、玄関に長椅子、フロアにソファを置き、好きな所で過ごして頂ける様工夫している。</p>		
54	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は自宅で使用していた物を持って来て頂き、居心地良く過ごせる様工夫している。</p>	<p>居室は、ベッド、エアコン、クローゼット、照明器具、防災カーテンが備え付けられている。タンス、椅子、机、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真、習字、観葉植物などの馴染みの品や思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。居室担当者が、備品の管理や衣替えなどを行っている。ポータブルトイレを利用している利用者や、安全対策として、センサーマット、マグネットセンサーなどを使用している利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>			

目 標 達 成 計 画

事業所名 あずみ苑津久井浜

作成日 令和5年5月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議はまだ新型コロナウイルス感染症対策の文書開催になっており意見の把握が不十分で地域からの参加も無い。	新型コロナウイルス感染症が終息した後は苑にて運営推進会議を開催すると共に参加者の幅を広げ多くの方に参加頂けるようにする。	ご家族様にも参加を呼びかけると共に町内会長等に会議の開催日をお知らせし参加頂けるよう調整する。	1年
2	35	年2回の防災訓練を実施しているが新型コロナウイルスの影響で簡易的な消防訓練になっている。	新型コロナウイルス感染症が終息した後は地域との協力関係を築き事業所にAEDが設置されている事の周知など、地域に協力できることを伝えていく。	ご家族様にも参加を呼びかけると共に町内会長や近隣の方々にも消防訓練等の参加をお願いし、地域の防災訓練にも積極的に参加し協力が得られるよう取り組んでいく。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。